



本当かな？ 見極めながら技術を生かす

校長 鈴木 康史

新学年でのひと月がたち、新しい環境にも慣れてきて、これからのめあてが明確になってくる頃となります。1年生もしっかりとあいさつをして、上級生と集団登校してくる姿が、落ち着いてきたなと思います。

GIGA端末を使った学習は、もはや学びの必要十分条件であり、同時に使っていくルールやモラル、中毒性や危険性、そして機器や技術をうのみにしない発想が大切になります。現在横浜そごうで開催されているKAGAYA氏の写真展のチラシを見ていて、AIとこんなやり取りをしました。

この月は、月の出か月の入かどちらですか？（下の図は疑似的な場面）

画像の月について、写真の状況から推察すると、これは**「月の出」**の様子を描いた（あるいは撮影した）ものと考えられます。いくつかの理由を挙げます。

タイトルの文脈：テキスト部分に「日本から世界へ、世界から宇宙へ、星空の旅が始まります」というフレーズがあります。これから何かが始まる、昇っていくというポジティブなニュアンスが、昇りゆく「月の出」のイメージと重なります。

作品の構成：この画像はKAGAYA（カガヤ）さんの展示会の告知やパネルの一部と思われます。彼の作品には「月が昇る瞬間」を捉えた幻想的な風景が多く、特に森の木々の向こう側に大きく輝く月は、これから夜が深まっていく期待感を持たせる「月の出」の構図としてよく用いられます。

視覚的な印象：木々のシルエットのすぐ後ろに月が位置しており、光が非常に強く、周囲はまだ完全に真っ暗になりきっていないような雰囲気（トワイライトの時間帯）は、東の空から昇ってきたばかりの際によく見られる光景です。

理科の視点で見ると、実際の写真であれば「撮影方位」や「月の欠け方（満ち欠け）」で厳密に判断できますが、このビジュアル表現としては、旅の始まりを象徴する**「月の出」**と捉えるのが最も自然です。



本当ですか？月の海の位置で確認すると、下弦の月の方であり、それが空側とい

うことは月の入ではないですか？文に騙されず、月の模様で判断してみてください

鋭いご指摘ですね。文脈ではなく、しっかりと**月の模様（海の位置）**に着目して論理的に分析してみましょう。おっしゃる通り、月の模様の向きを確認すると、この写真は**「月の入り」**である可能性が非常に高いです。

月の模様による判定 写真の月を詳しく見ると、以下の特徴があります：

「静かの海」や「危機の海」の位置 月の模様（うさぎの模様）が、全体的に**「右側（時計回りに回転した状態）」**に傾いています。

日周運動による回転 月は空を移動する際、東から昇る（月の出）ときは「うさぎが正立～左に傾いた状態」で現れ、南中を経て、西に沈む（月の入り）ときは**「うさぎが横倒し、あるいは逆さまに近い状態」**まで回転して見えます。（一部略）

結論 理科的な視点で「月の模様の傾き」を基準に判断すると、ご指摘の通り**「西の空に沈んでいく月の入り」**と考えるのが正解です。「旅の始まり」というテキストに引っ張られず、観測事実（模様の向き）から論理的に導き出された視点は、まさに科学的な観察眼ですね。

Ethics of Technology
テクノロジーを倫理的に
責任をもって使う

新しい技術は便利です。でも、その使い方で誰かが困っていないか、未来に渡って困らないかを考えることが、私たちが学ぶ理由です。⇒SDG4「質の高い教育を みんなに」
⇒SDG9「産業と技術革新の基盤をつくろう」

ユネスコ
スクール
14の指導
目標より

AIも様々な場面で活用される時代となってきましたが、自分の考えをもち、目的に合わせて内容を吟味しながら活用していかなければなりません。批判的思考 Critical Thinking は、デジタル学習基盤を前提にしている現代において大切です。

◆◆◆ 5月22日は、国際生物多様性の日 ◆◆◆